

費用の一部を助成する商業活性化重点支援事業を導入、また各種商工業事業資金の融資枠を確保するための預託を継続して行います。

観光振興について

本町は、名勝「鬼の舌震」に代表される恵まれた自然や、たたら製鉄をはじめとする歴史や文化、それらを伝える記念館等多くの観光資源を有しており、毎年県内外から多くの観光客が訪れています。



奥出雲の観光スポット「鬼の舌震」

中でも亀高温泉「玉峰山荘」は、本年一月に入館者が百二十万人を突破し、全国旅行情報誌の「お気に入り温泉ランキング」で二年連続島根県的一位に選ばれております。今後も奥出雲観光ツアーやトロッコ列車を活用した観光企画、地域間交流などによる田舎ツーリズムや、ホッケー場や陸上競技場などを活用した合宿の誘致などを進めて参ります。

第三セクター

合併後第三セクターの見直しに着手して参りましたが、昨年は経営不振の「有限会社奥出雲サンマツシュ」、更に補助金依存体質の「株式会社アメニティよこた」を町の補助金に依存しない経営主体に移行し、今後経営の健全化に向け運営して参ります。

さらに今年度は利用者の減少傾向に歯止めがかからない「ヴィラ船通山」について、指定管理受託者の辞退により、町で新たな法人を設立し、経営責任体制を明確にした上で、有利な過疎債を使って改修事業も検討し、運営を継続する考えです。

なお、三井野原スキーリゾート特別会計については、合併後引き継いだ欠損金と地元が立替負担していた圧雪車購入資金を平成十七年で返済し、繰上充用欠損残額については、平成十九年度で返済し、三井野原スキーリゾート特別会計の欠損金処理は完了します。

定住対策

依然として過疎化や少子高齢化が進む中、定住対策事業

として雇用の場の確保にあわせて、・Uターン者の定住促進のために造成した住宅地のPR広告等を実施し、町内就職、定住者に対する奨励金制度を引き続き実施します。また、昨年に引き続き国の交付金と過疎債適用を利用した、空き家活用事業に取り組み、将来の奥出雲町を担う若者や・Uターン者の定住促進に努めます。

生活基盤整備

道路網の整備

国道四三二号については、亀高の町から梅木原地内大仁農道の間が改良事業として、また、大仁農道から亀高駅方面については、交通安全対策事業として引き続き工事が進められます。

主要地方道については、玉湯吾妻山線の高尾工区が供用開始される予定で、上阿井八川線は大馬木地内旭工区を、横田多里線は大田市街地の街路工事と稲原地内の改良工事が引き続き実施される予定です。

一般県道については、印賀奥出雲線の万丈工区も継続施

工の予定となっています。また、木次横田線については、土屋から郡間において、一・五車線改良として継続的に工事が進められます。

町道については、交付金事業の三沢山根線の尾白工区、八代三沢線、県が負担する佐白北原線について、橋梁工事を含めて継続実施します。

また、町単独事業としては、川東・雲崎の新設道路工事に着手、さらに見寄中田線を継続施工し、ダム関連の三津田大畑線、玉雲寺・上布施線に着手します。

新規の事業では、横田地区大市地内の主要地方道横田多里線と町道横田八川線との変則交差を解消するための道路整備を計画しています。

次に、県事業でありまず通常砂防工事として、折渡川、五の畑川が継続実施されます。

地すべり対策工事としては、鞍掛地区、上鴨倉地区が、また、雪崩対策事業としては、大馬木地内の反保地区がそれぞれ継続施工されるとともに、急傾斜対策事業として亀高地内の谷奥地区が新た

に着手される予定です。

尾原ダム建設事業

現在、ダム本体の掘削工事が進められており、本年度からコンクリート打設工事に着手され、三月には定礎式が行われる予定です。また、付け替え道路として引き続き佐々木線をはじめ、各路線が国土交通省の直轄事業として計画的に進められる予定です。

ダム湖周辺整備については、尾原ダム地域づくり活性化研究会を中心として、国土交通省、島根県、地元等関係機関と調整を図り、ダム湖周辺の活性化が図れるよう努めて参ります。



着々と工事が進む尾原ダム建設現場